

全国まなべ会会報

編集と発行 全国まなべ会広報部 事務所

〒763-0053 香川県丸亀市金倉町1544-1
TEL & FAX 0877(89)9530



全国まなべ会会長
真鍋光廣氏

会わずとも、心を一つに

全国まなべ会の皆さん、久しくご無沙汰しておりますが、お元気ですか、お変わりありませんか。

節目というものは何故かなかなか越えられないものですね。わが全国まなべ会も発祥の地真鍋島参拝の第40回記念大会の大会節目を前にして、既に3回の足踏みのやむなきに至っております。コロナの波状攻撃はすでに何波にも及び未だ衰える兆しが見えません。8月には1日当たりの感染者が20数万人に及ぶ激しさで、この状態では来年の開催も危ぶまれます。(来年3月には開催の可否を決めなければなりません、それまでにコロナ禍が

スツキリと鎮静化してくれることを祈るばかりです。

今年はコロナばかりでなく次から次へと衝撃的な出来事が続いています。

2月24日にはロシアプ

ーチンによるウクライナ

侵攻が始まり、我が国の安全保障意識にも大きな影響を及ぼしています。国連の常任理事国で拒否権を持つロシアが国連の現

加盟国の独立国家ウクライナに

禁止手の核使用の脅しをかけて

戦争を仕掛けるのですから恐ろ

しい話です。半年が経過しても

一向に火の手が止む様子も見え

ず戦争は越年するというのが大

方の見方です。そこに緊迫する

台湾問題が浮上しています。

この戦争によって石油、ガス

を始め小麦、食用油、肥料などが

暴騰し、世界的なインフレを招

来しており、世界中の生活者を

困らせていますが、このインフ

レ抑制のためにアメリカの金融

当局が金融引き締めを強力に進

めており、世界の経済金融の混乱と景気後退をもたらそうとしています。国内ではこの夏も猛暑でしたがいち早く6月から猛暑が訪れたのが特色です。6月下旬の東京の最高気温の平均が

32.8度と史上最高を記録し、東

京電力管内では6月に4日間も

電力の「逼迫注意報」が発令され

ました。なんとかこの夏は乗り

越えられましたが、厳寒期の来

年1月には東電を始め日本全土

で停電回避の綱渡りをしなければ

ならない電力状況です。

夏の参議院選挙の応援中安倍

元首相が暗殺されるという大事件

が起こりましたが、その背景

事情としてカルトによる霊感商

法が浮かび上がり、政治との深い

癒着と今なお多くの被害者を

出している事実が明らかになっ

ています。

このように大問題山積の中で

のコロナ禍の3年ですが、子供

にとっては中学、高校に入学し

て卒業する期間に相当するわけ

で、不十分な対面教育で学力ハ

ンデを負うことや友達との交流

による社会性の涵養ができにく

くなることなど、本当に気の毒に思います。

しかし他方、私のような後期高齢者にとっても身体機能の劣化は1年ごとに進行しますだけに、3年間に余って全国大会が開かれない結果全国組織の紐帯が弛緩しはしないかと心配です。そのところは「会わずとも、心を一つに」の想いで、それぞれにご尽力いただくことを期待し、1日も早く全国大会でお目にかからせていただきたいものと存じ、ご挨拶とさせていただきます。



まなべ会発祥の地 真鍋島

はじめに

この令和四年に入ればコ

ロナ問題も落ち着くものと期待したのであるが、そうは問屋が卸さず反って第七次の感染が起こり拡大してしまった。今回の波は、地方圏ではこれまでの最高値を超える感染者数になっている。しかも持病を持つ高齢者の感染者が重篤から死に至る傾向にあり、また若年層での感染拡大を来す大変由々しき状況になっている。

コロナ感染の当初期では、日本においては感染者数が小さく、むしろ西欧の感染者数が大きかったのである。しかし現在では逆転していて、日本国の感染が爆発している。そのため地方の大病院では職員の感染も起こり、治療余力もない医療破綻という大変な状況に立ち至っている。今夏の国内では、満遍なくクラスターが発生していてどうなるのやら大変危惧する状況になっている。この現況は、当初の第一次感染状況の折に、かつて岡田晴恵博士がマスコミで想定予測して言及した気色と似ているようである。

またヨーロッパにおけるロシアのウクライナ侵攻問題も、これはロシアの覇権主義による一方的な侵略行為であり、今の国連機関では解決法を持ち合わせていないのである。

そもそもこれは先のトランプ大統領がアメリカ自国第一主義を唱え推進したアフガン撤収政策に起因があり、また次のバイデン大統領の不介入主義の具体的執行が、覇権国家ロシアを勢いづけたものと考えるのである。

さ。内外ともに大変な状況にある上に、また例年化した集中豪雨が発生していて、地球温暖化問題が国内外で問題となっている。そのうえ、安倍元総理が選挙期間中に狙撃され、急死されたのである。最初はテロによるものと驚いたのであるが、その後犯人からの自供により大きな背景が存在していたことが判明している。この深刻な状況に対処すべく、岸田総理は局面打開に向けて諸施策を思案中である。

この令和四年は、先年からのコロナ問題、そして国外ではロシアのウクライナ侵攻を起因とした国際問題の深刻化など、甚だ多難な案件山積の年になっている。

わたし達にとつても、これまで経験したことのない社会生活局面に遭遇し、将来展望のできない難しいものになっている。それ故危機管理意識の涵養と未来展望力をもつてこの時代を乗り切つて行く自力の覚悟を持たねばと念するのである。

國六

北海道への移住に想いを寄せて

江戸幕末頃になると、西欧列強から開国を迫られるようになり、国内外の状況は緊迫してくる。この頃西欧においては第一次産業革命を迎えており、資源の入手と販売先の確保が重要であった。武力による先取り合戦を駆使して海外に進出し、市場を獲得するのが国力の源泉になっていた。

この時代の強力国家は、米国、英国、フランス、オランダ、スペイン、そしてロシアとされており、日本においての最初の外圧による開国要求はアメリカ

からであつた。ペリー提督が五隻の軍艦による圧力でもって開国を迫つて来た。一方北の方からはロシアが北海道を耽々と狙つていたことである。例の高田屋嘉兵衛を拿捕して日本への侵攻足掛かりとしたのである。

日本国内においては、幕末頃になると世情不安定になり、徳川政権は機能しなくなってしまう。最後には有力各藩による連合体政権は確立できず、薩長を中心とした政権が出来上がった。もともと敵対した藩からも有能な人材を集めて日本国の近代化を図ることになった。拙速な政権作りのため、勢い安定したも



屯田兵村の位置図

のではなかつた。旧土族の不満もあり、また、民意を吸収したのではなく、綻びのあるものであつた。

ともあれ、中央集権政府の確立を図り富国強兵を進めることであった。然し明治新政府は財政面で大変苦悩していた。このため西欧列強に対しては、門戸を開いて日本市場の解放を図る一方、北方の守りについては、旧土族の人達を防人の屯田兵として配置することにした。平時は土地の開墾による農作物や物品の製

造などに従事させ、一方、いざ鎌倉のときを想定して軍事教練などに努めさせていた。

この屯田兵制度については、内紛の有った藩からは強制的に屯田兵として北海道に派遣したりしている。例えば隣の阿波藩における本藩の蜂須賀系統と淡路の別藩との仲が悪く、淡路の稲田家の方が劣勢となり北海道の方へ移ることになる。このほか伊予西条藩においては明治政府の方針により屯田兵として旭川へ移住している。讃岐においては丸亀藩士だった三橋正之や大久保謙之丞の主導により北海道の洞爺湖周辺に移住している。この移住については移住地元における経済的な事情(例えば綿作の不況など)があるのである。

移住の形態については、前述のような旧藩主形態の取り組みや、藩内の有志による組織だった移住実施や、また民間を主体に組織した移住などがある。

我が讃岐においては、藩内の有志による組織だった移住は、明治二十年ごろであるが、それ以前に移住している実績が観られるようである。いわゆる出稼ぎの格好であり、親類縁者が纏まって出稼ぎを目的に新天



琴似兵村の和風兵屋

明治二十八年が最初とされている。香川県から三十戸余り、富山県二十余り、愛知県十戸余り、徳島県八戸、愛媛県七戸の記録がある。

さて、この当時は北方からは、強国であったロシアの南進が進んでいたため、明治新政府は防衛と開拓を目的とした屯田兵制度を作ったのである。屯田兵は、普段は開拓と農業に従事し、もし外敵の侵入があれば、北海道を防衛するという任務に就くことになっていた。そのため、この任務は旧士族が適格であると考えられていた。

従って明治政府は、明治七年(1874)に、屯田兵令(後の明治十七年屯田兵条例に改正している)を制定し、これにより全国から屯田兵とその家族を募集している。北海道に移植する屯田兵には、一戸につき五ヘクタール(五町歩)の土地の給付、また五十七・五平方メ

ートル(十七・五坪)の兵屋や、農機具や寝具などの生活用品などを支給することにしていた。そして明治二十五年(1892)八月には、屯田兵第三大隊の第三及び第四中隊の屯田兵と家族が入地している。その数は四百戸、二千三百四十四人であった。

ところで、明治二十七年から昭和十三年までの「香川県から北海道移住戸数と人数」は次の「グラフ1」とおりである。また香川県からの北海道移住戸数と人数については(明治二十七年から明治三十年の四年間)「香川県の北海道移住人数は【表2】のとおりである。この【グラフ1】についてみてみると、移住人口については三回に亘る移住のピークが出てくる。即ち明治二十八年、明治四十年、そして大正七年である。

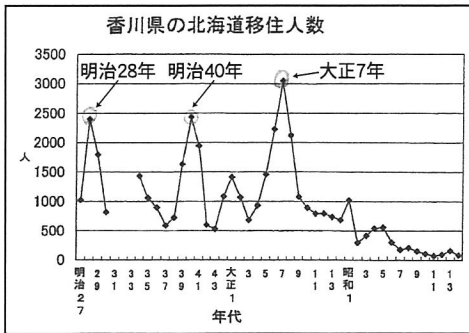
この表を分析すると、この移住人口の強弱の内面にはその土地々々の事情があるようである。香川県においては、西部地域では綿作の不振があり、東讃地

明治27～30年の香川県からの北海道移住戸数と人数 【表2】

	明治27		明治28		明治29		明治30		合計	
	戸数	人数	戸数	人数	戸数	人数	戸数	人数	戸数	人数
高松市	0	0	1	7	0	0	0	0	1	7
大内郡	0	0	1	5	28	74	1	6	30	85
寒川郡	14	36	14	63	17	63	5	12	50	174
三木郡	4	18	5	27	10	37	7	32	26	114
小豆郡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
山田郡	26	107	21	95	27	86	15	62	89	350
香川郡	40	151	79	346	87	294	101	363	307	1,154
阿野郡	36	153	61	264	78	287	33	127	208	831
鶴足郡	15	64	28	144	24	109	8	21	75	338
那珂郡	11	51	88	211	60	269	11	46	170	577
多度郡	0	0	5	25	2	15	0	0	7	40
三野郡	83	217	96	403	71	338	11	58	261	1,016
豊田郡	46	227	174	809	44	226	22	89	286	1,351
計	275	1,024	573	2,399	448	1,798	214	816	1,510	6,037

(『香川県統計書』より作成)

【グラフ1】



(『香川県統計書』より作成)

域では甘藷生産の不振など経済的理由があったことが指摘されている。

また移住については、当家の先祖たちも北海道に渡っている。北海道移住歴史について言及してみたい。明治維新後、いささか時代が安定して来ても、から当家も事業の一環として廻船業を行っていたらしいのであるが、明治三十八年に日露戦争が終わってからは不景気になったらしい。船の運航実績は物流の減少に伴って小さくなってきたのは当然であろう。



開墾作業と開拓者の服装(明治後期)

水主を多く抱えていて経費も嵩んできたのであった。このため手持ちの千石船はかつて詫間にあった粟島商船学校に売却している。この当時航海学校は村立であったが、地元では、村立から規模拡大と充実のため県立への昇格運動を働きかけていた。この時、外航のための大型船を必要としていた。そこで当家が保有していた200トンの「七宝丸」を県立になった機会に、粟島商船学校へ売却することになった。その資金などを充当して、当家の曾祖父「真鍋三九郎」は一族を引き連れて新天地の北海道の白老地域へ移住を図っている。

その移住時期については何時頃だったのかと思うのであるが、その時期については前述のごとく、日露戦争後には不景気が襲ってきて、日本国内では

大変な時代でもあった。それ故、讃岐においても明治四十年前後が北海道移住の大きな山場の一つになっているので、その移住機運に便乗して新天地へ渡ったのではなからうかと推察する次第である。

さて北海道では、鉄道の枕木やマッチ製造の事業を始めたのであるが、マッチ製造については化学薬品を使用するためよく爆発事故に遭遇していた。そのため事業継続は困難となり、事業を取りやめて郷里の仁尾へ帰って来たのである。北海道での事業期間はいか程であったのか不明であるが、十年から十五年間ではなからうか。一家が帰郷するに際して、末っ子の娘は帰らずに北海道に一人居残ってしまった。そのため当家の祖父、利平は、後のち長居をする妹を北海道へ迎えに行ったのであるが、妹は北海道が良いと言いい、頑として帰らないと言いつつたのである。私の祖父は根負けしてしまい寂しく帰ってきた。北海道の雄大さと仁尾という狭い領域の環境を天秤にかけたに相違なからう。新天地の北海道が大変気に入って、頑として帰らないと兄の利平に申ししたのである。私の祖父は、

妹が北海道で上手く生活を維持出来ていけるのか、心配しながら寂しい思いで仁尾へ帰ってきた。私の祖父の姉妹は皆元気で自立心が強かったように聞いている。そして祖父の兄三九郎(総本家)の系統は、その後朝鮮に渡って商社を経営していたが、太平洋戦争では敗戦を予想していたものか、終戦になる前に仁尾へ帰郷している。そして郷里の仁尾で少しの期間農業をしていたが、直ぐまた九州へ渡り電気資材関係の卸売業を始めて今日に至っている。一方分家である当家は、大正の初めには下関へ渡り、洋服の仕立て、販売業を手広く行なっていたが、父の長兄(二郎)は政治家と結託して不動産事業などの専門外に手を拡げて失敗している。この大正時代は政争が激しい時代であり、日本製鉄所の工場が戸畑に新しく建設される計画があり、その立地先選定において政治家間で競い合いがあったのである。長男の一郎は負け戦側のスポンサーの一人であつたらしい。(真鍋洋服店では、下関が本店で、戸畑に支店を持っていた)。

その後、この長男の一郎系統は京都へ、そして三男の父(力吉)は仁尾に帰って来た。そして農業や土建の砂利、砂、建築資材の赤土販売などで生活の糧を得ていた。かように当家は仁尾ではフロンティアスピリット旺盛な家として知られていたが、私の義姉(長男嫁)によれば波乱万丈の家筋であると、笑いながら私に吐露したものである。

ところで香川県は領域の狭い土地であり、長男は町外へ働き手として転出するため、最後に残る末子男子が家を守るという末子相続がかつては多く見られていた。わたしの身の回りにもこの事実を発見するのであったが、現在においては、むしろ、このところの核家族化や少子化現象に遭遇して、この地方特有の末子相続現象はほぼ消滅している。むしろ香川県など地方では、家族形態の維持さえもが困難になってきたことが問題になってきている。

また明治時代から他地域への移住では、夫々の移住元が抱える問題が根底にあり、地域問題解消のため移住政策が実施されてきたが、一方、今日においては地方人口の減少により勤労者が不足してきたため、外国から労働者移入を図っている。技能実習生の名のもとに外国

人を受け入れ実施している。経済的視点で見ると、彼らは生活費を差し引いた残りの剰余分を自分の本国へ送金している。地域県内で還流する資金は目減りして還流するのである。経済力の増強は人口の増加や交流人口の拡大により大きく影響(左右)される。単なる資本投下では駄目であり、付加価値を産み、生活を高める技術や製品サービスへ資本投下され、大きな果実を生みださねばならない。国内で移住受け入れ容量が大きい明治時代にあつては、国内での資金還流で経済はほぼ拡大してゆくが、現代のように外国からの安い賃金就業者の流入は、国内の労働市場環境を大変シビアなものにするし、外地での工場立地政策では危機管理の視点から問題がある。

手国との外交政策が功を奏すれば上手くいくのであるが、いやしくも不調であれば、事は進まないものである。

現代においては、人口の移動はどのような状況で発生するのか、明治時代と違って今では国内事情での国内移住は個人の自由な意志の下に実行できるし、また各県自治体の地域活性化施策の推進によって個人が自由に移住選択できる時代になってきたのである。一方国際化時代の今日にあつては、当該国と自国との税制度の良し悪しの比較や、自然環境、文化度などの理由で移住先国や国籍変更をする人たちがいる。現在では国内外に関わらず、移住問題は色々な原因で目にする状況になっている。

ところで、最近のウクライナ問題を前にして、あくまでも人間の尊厳が失われない形で移住や出稼ぎが行われて欲しいものである。国際関係がすべからず安定するよう世界各機関の協調ある連携を望むのである。実利主義に支配される西欧文明から脱却できるのか、大いに関心のあるところである。

(補足)

表題の北海道への移住は、国内のおおよその地域から実施されている。しかし当時の北海道は、対ロシアとの関係で見れば地政学的に大変憂慮すべき最先端の土地であつたのである。そのため明治新政府は祖国防禦を踏まえて「屯田兵制度」を採用し政策実施している。幕末頃には外国船が日本近海を徘徊しだしているが、そのうちロシア軍船の侵入が一番多くなつていた事実である。もともと江戸末期に当たっては、松前藩をはじめ、北前船を運航していた藩、例えば土佐藩なども北方海域を調査している。また老中筆頭であつた阿部正弘は、腹心の関藤藤陰を蝦夷地へ二回も派遣して異国の情報収集に当たらせている。関藤藤陰は人物も立派であり、現地の住民であるアイヌの人たちに誠実な態度で接しており、彼らから気象などの環境や資源また外国人の動向など多方面にわたる情報を入手していた。また廻船業という商社経営をしていた高田屋嘉兵衛はロシア海軍に拿捕されていたが、その後、日露両国の外交交渉による捕虜交換決定により解放された事例

もあつた。

この先人たちの情報の積み重ねが有つたからこそ、新政府は北方領域の施策を慎重に推進したのではと推察するのである。また各歴史事象を分析するには、文明動態的研究手法が大切であると考ええる。すなわち大局的、俯瞰的に観察することの重要性を知ることでもある。山田方谷が信条とする「事の外」に注力し、「事の内」という近視眼的観方を排除することであろうかと思う。山田方谷は危機管理意識が旺盛だったが、一方、イノベーションの意欲や知識も豊富であつた。備中松山藩の興隆は、この地域で産出される砂鉄を利用した鉄製の農機具生産であつた。鉄工所の建設により人口の増加が図られ、地域に活気が出てきたのである。このほか玉島港の整備などの諸施策を実施して地域創生に貢献している。

このように、江戸末期においてすでに山田方谷が産業創設による人々の移住増加を図つていた実態を知ることができる。凡そ歴史は山田方谷などの立派な人材から、また、讃岐にあつては大久保謙之丞兄弟などの人材から多くのものを学べ

ることが出来るのである。

(真鍋國六)

*引用・参考資料

- ・香川県立文書館紀要 第八号 嶋田典人
- ・香川県史 第十五巻
- ・北海道移民と屯田兵願
- ・讃岐丸亀京極藩と北海道移住のアーカイブ

嶋田典人

- ・讃岐移民団の北海道開拓資料
- ・多度津文化財保存会

大久保謙一・白川 武

- ・多度津文化財保存会報

- 第24号 日露関係の一考察

- ・山田方谷ゼミナール第九号

- 吉備人出版

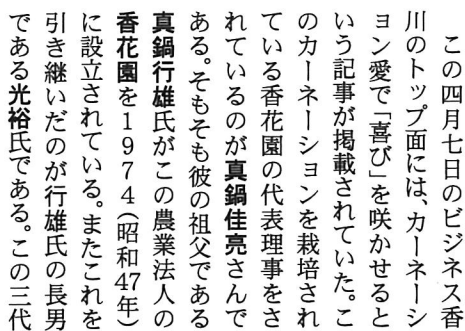
- ・幕末変革期の備中松山藩と

- 福山藩の逸材



山田方谷

香川の花卉栽培の貢献者



た一方では、真鍋行雄氏はまなべ会を創設した役員
の一人であり、讃岐まな
べ会の副会長を一生涯
務められた人物でもある。
この係累の方々は誠実
勤勉であり、栽培するカ
ーネーションの分野で
市場価値が認められて
おり、数年前には、光裕
氏の手掛けたカーネー
ションが市場で日本一
の品種と評価されてい
る(既全国会報誌で紹介)。
今回の新聞掲載を懐か
しく見させていたのだ。



自身で開発したオリジナル品種「レアレア」を手にする真鍋佳亮さん

かつて伊予まなべ会の会長として活躍されていた真鍋充親氏が、昭和六十年度に発信していた貴重な年賀状を最近入手した。この理由について申しますと、わたしの先輩から入手したものである。第五回全国まなべ会の全国大会は当地新居浜の石鎚神社で昭和60年9月7日～8日開催されることになった。この大会に出席したきたいとの依頼を、わたしの先輩に新年早々年賀状で案内されていたものである。

く最近に、伊予まなべ会先輩の達筆の年賀状を入手するとは、いやはや不思議な邂逅と言えるのではなからうか。私にとつては、会ったこともない充親氏に懐かしい想いを馳せるのである。また、充親氏が著述された熟田津姫関係の書を古書店で見かけたことがある。その本の中には、筆者の学校の先輩だった玉尾博康（元香川県立病院院長）氏の父が、先述の真鍋充親氏へ出されたハガキが差し込み混入していた。充親氏自身が著述された

本を、玉尾先輩の父が購入
所持していたのであろう。
ご縁ある書物を、その時買
わなかつたのである。

先の私の職場先輩は、充親氏が記述発行していた熱田姫関係書籍を所蔵していた。しかし、この半年ほど前に整理して手放したとのことで入手できず、貴重で身近な縁の有る書籍にまみえることが出来なかつたこと反省しきりである。

オーストリアから新緑のお便り

その後いかがお過ごしでしょうか。コロナのみでなくロシアのウクライナ侵攻で世界中が今後の影響を恐れて居ります。早々の停戦、終戦を祈るばかりです。

さて、このところ多方面で活躍のご様子が会報誌から伺われ楽しく拝読させていただきました。季節の移り変わりは早いもので、もう阜月を迎えることになりました。寒さもやつと通りぬけ、中庭の瑞々しい赤ブナの可愛い新芽が私どもの目を潤いさせてくれました。このところでは、4日ほどお日様の光を受けて日毎に元氣よく多くの葉っぱを加えてきております。

この庭辺りは、花咲か爺さんが花を咲かせるように、急に彩りと新緑の世界を作り出してくれています。近くの国では大変な状況ではありますが、ここウイーンでは希望が持てる良い季節がやってきました。お日様の輝く光が持つ世界の強さに驚いております。気分まですっかり明るくなるようです。

では新緑の美しい清々しい季節を明るく前向きにお楽しみください。そしてお元氣にお過ごしください。

友子



4月24日朝 寝室よりの眺め

阿波からの借耕牛のお話

耕運機が出回る前までは、春の植え付け準備のため、田の掘り起こしに和牛が大きな役目をしていました。西讃岐地方では、耕地面積がやや小さいために、和牛を飼育していない農家もあつたのである。そのため阿讃山脈を越えて、阿波から農繁期には牛を借りてきて耕作作業を行っていた。中讃あたりでは、ことに満濃町琴南と阿波の美馬を結ぶ三頭越えをして讃岐へ牛たちは来ていたようである。季節の一作業が終わってから、また美馬の持ち主に帰って行ったのである。牛は忍耐強く働くため、帰るころには借主の仕様によつては痩せ細って帰って来ていた。この借耕牛の時節は一つの風物詩であり、江戸中ごろから昭和の中ごろまでには、牛と人間の哀感が感じられる

通例の風景が阿讃の麓の集落でよく見られていた。

この風景は、阿波と讃岐の経済的理由もあつたのである。阿波の山間部では米栽培が困難なため、讃岐の美味しいコメや海の産物である塩、干物魚類を求めていた。反対に讃岐では、耕作面積も小さく、おまけに牛の飼育には経費が多かるため、牛飼育する農家は限定されていた。その点阿波においては牛の飼育をする環境は良かったのである。

最近ではこの民俗歴史について詳細に記述された書籍「あわさぬき借耕牛探訪記」が発刊され、かつての民俗史の一端を

正確に報告していただける良書である。

またこの「借耕牛」の書籍を起点にしてこの程映画化されることになった。映画製作については、野球のダルマ監督として有名

だった池田高校薦監督のご子息である薦哲一朗さんがメガホンを執って新作の撮影を既に始めておられる。完成予定は2023年3月の予定になっている。映画のタイトルは「黒の牛」であり、撮影は阿波、讃岐など四国が中心であり、主役には台湾の李康生(リー・カンション)が務めており、既に撮影開始がされている。

*書籍作者 富田 紀久子
(画・文・編) 発行社 美巧社



伊予まなべ会より

切山にまつわる
平家伝説『幼帝安徳』
……と題する小冊子が、
地元のボランティ
ア深川京子さんの
手により昨年の十
一月に発行されて
いる。

ここ切山は、安徳
天皇を庇護してや
つて来た五氏の田
辺太郎、真鍋次郎、
参鍋三郎、間部藤九
郎、伊藤清左衛門国
久をルーツとする由緒ある歴史の里である。そして安徳天皇主
従たちはここで少しの間滞りした後、三豊市詫間の須田湊を
經由して西国の壇ノ浦へ移ることになったのである。

この切山には、有名な田辺家系譜という重文の古文書が存在
し、時代を映した資料として特に貴重な地域財産でもある。こ

のまもり伝えられた歴史古
文書によりご先祖の歴史概
要が分かるものである。こ
の住民の方々は今も安徳様
の遺徳を偲んで歴史遺産を
固く守り続けておられるの
である。



安徳天皇

讃岐まなべ会より

丸亀市には、かつてこの地を
治めた京極氏の大名庭園「中津
万象園」がある。明治時代に京
極家が手放した後には所有者
の変転があつたが、現在では讃
岐まなべ会の副会長をされて
いる真鍋雅彦氏が関係する公
益財団法人の中津万象園が保
有管理している。

京極家は古くは守護大名の
家柄であり、ご先祖の佐々木道
誉はバサラ大名としてつとに
有名であつた。また同時期には
わたしどもと関わりのある楠
木正成と相對峙する人物であ
つた。この道誉は華美を好んだ
ものか、多くの文化資産を蒐集
され、京極家に引き継がれてき

た。特に茶道の面
では、野々村仁清
と関係が深く、彼
の作品を多く収
集していたので
ある。藩の禄高の
小さかつた京極
家にとつては、立
派な三つの宝が
有るとして他の
大名家から羨望
の的になつてい
たものの一件が
この仁清の焼き
物作品であつた。
とくに有名だつ
た梅をあしらつ
た茶壺は国宝になつてゐる。残



江戸時代から続く丸亀京極藩のお庭「中津万象園」

念ながらこれ
らの陶器類は
終戦後殆ど京
極家から散逸
してしまつて
いる。しかし
丸亀市に猪熊
現代美術館が
出来た折には、
五つの大きな
茶壺や小型の
茶器などが里
帰りして、新

この京極家の美の伝統を引
き継いで創設されたのが先述
の中津万象園である。コンパク
トではあるが、一見の価値ある
庭園であり、中には国内で一番
古いとされている煎茶席の有
る東屋が湖畔に佇んでいる様
は天下に誇れる歴史資産では
なからうか。



国内最古の煎茶室「観潮楼」

らながらこれ
らの陶器類は
終戦後殆ど京
極家から散逸
してしまつて
いる。しかし
丸亀市に猪熊
現代美術館が
出来た折には、
五つの大きな
茶壺や小型の
茶器などが里
帰りして、新



阿波まなべ会だより

この程阿波まなべ会の第82号会報誌が発行され、真鍋昭夫会長の挨拶が掲載されている。同姓の真鍋淑郎さんがノーベル物理学賞を受賞されたことが、四国中央市出身でノーベル賞を受賞された愛媛県出身者の淑郎氏で三人目とすることが述べられていました。

また、寄稿文で「阿波まなべ会を支えた人々」とのタイトルで、昭和五十四年二月十一日、全国に先駆けて阿波まなべ会が創立されてから令和四年で四十四年目となるこのことで、会の発展向上に尽力された方々の業績を伝え、残して、それぞれの方々への感謝の誠が捧げられています。紹介されているのは次の方々です。(敬称略、詳しい説明略)

◎美馬地区

真鍋相三朗 美馬市脇町川原町 農業兼養鶏業 阿波まなべ会監事

真鍋桂子 美馬郡つるぎ町貞光町江ノ脇 農業 貞光町民生委員 社会福祉功労者として厚生大臣表彰受賞

真鍋喜美子 美馬市美馬町大宮西農業 平成二十九年阿波まなべ会会計監事に就任

◎麻植地区

真鍋行正 吉野川市山川町翁喜台食料品店経営

真鍋佳資 吉野川市山川町旗見 元小学校校長 徳島県山川少年自然の家所長 徳島県薬学研究会会長 鳴

門教育大学非常勤講師
真鍋光信 吉野川市鴨島町鴨島 自転車、自動二輪販売業
真鍋賢一 吉野川市鴨島町森藤 元中学校教員 農業

◎鳴門・板野地区

真鍋八郎 板野郡吉野町柿原 縫製業 元吉野町議会副議長

真鍋 豊 阿波市土成町美祿 西阿ブロック製造工業社長 元土成町議会議長

真鍋俊照 板野郡板野町黒谷居内 四国四番札所大日寺 住職 元金沢文庫理事 四国大学教授文学部長
真鍋 勉 板野郡上板町瀬部 元高志農業協同組合組合長
真鍋一雄 阿波市土成町美納地 元土成農業協同組合専務理事 阿波まなべ会監事

知巳様は、以前、全国まなべ会の理事で伊予まなべ会会長敏朗様の実兄でもあります。

95歳 きょうも診察 医師 真鍋知巳さん（新居浜） 2診療所勤務 105歳まで現場 目標

5/3(火) 10:06 配信 6

愛媛新聞 ONLINE



中萩診療所で勤務に当たる真鍋さん

8回目の年男を迎えた現役医師がいると聞き、愛媛県新居浜市萩生の中萩診療所を訪れた。診察室で患者を待っていたのは1926（大正15）年5月26日生まれの真鍋知巳さん（95）。生涯現役へ、きょうも白衣に袖を通す。

真鍋さんは西条市出身の父が仕事を求めて移住した北海道佐呂間町で生まれた。3歳の時に、開業医として働く父に付き添い家族で樺太に移住した。

北海道大医学部臨時付属医学専門部を卒業後、外科医として国内各地で勤務。父が開業し院長を務めていた西条市永見の真鍋病院に65年から勤めた後、84歳になった2010年に中萩診療所で新たなスタートを切った。

週6日働き、中萩診療所が休みの日の午後などは別の診療所で勤務する日々。中萩診療所の看護師長野間三千乃さん（54）は「毎日勤務できる体力はすごい。普段から優しい語り口で感謝の言葉をくれる」とほほ笑む。

今も現役で働く原動力になっているのは大病を患い、貧しい生活を送った学生時代の思い。「人にはとてもお世話になったから、その恩返しをしたい」と口にする。

真鍋さんの今の目標は、医師として100歳を超えて活躍した日野原重明さんが亡くなった105歳まで現場で働くことだ。健康の秘訣（ひけつ）はたばこを吸わず、お酒もたしなむ程度にしたことと言いつつ「祖父母も両親も長生きだったから先祖のおかげだね」と無邪気に笑った。



北海道まなべ会だより

この程北海道まなべ会の第83号会報誌が発行され、真鍋敏忠会長の挨拶が掲載されている。

1. 「北海道まなべ会」の永遠の存続を願う。

コロナ禍により、総会、懇親会が実施できないこと、姓を同じくして集っている絆が緩んでいくのではないかと心配が述べられています。

また、昨年10月16日朝日新聞道内版に康利さんが「祝・ノーベル賞まなべ会快哉！」と投稿された記事が掲載されたとのこと。

会長の父の生家のある観音寺市大野原町青岡を訪れた降り、四国中央市の重要文化財真鍋家住宅へ寄り、伊予三島の従姉妹の家にも連れて行ってもらったことが述べられています。

2. 学童疎開

敏忠さまの三重での疎開生活が語られています。

3. 富士山登山に参加して

和夫さまの令和元年の登山記録が語られています。

4. 闘病

秀昭事務局長のクローン病の診察・治療から、胆のう癌の宣告、闘病記が語られています。

5. 編集後記

秀昭事務局長による編集後記。

秀昭事務局長の寛解を祈るばかりです。

わが故郷、父母ヶ浜の夕陽に想う

このところ父母ヶ浜の夕陽が提供する対称の映像が、コロンビアのウユニ塩湖で夕陽に沈む情景に似ているとネット上で話題となっている。中南米と違って、当地は時間と経費のかからない場所として若者たちを中心として大変な人気になっている。

想えば、この海岸は遠浅になっ
ていて、しかも白砂であるため、子供たちにとっては結構な夏の遊び場であった。ここは、かつては本ハマグリやマテ貝がよく採れていた海岸であったが、しかし、近年の乱獲により殆ど彼ら(貝)の姿を見ることが出来なくなってしまった。しかし秋から冬にかけては、飛来するカモ鳥類の休憩地であったのだらうか、海面上で鳥たちが波と戯れる姿をよく観ることが出来た。おまけにこの時期は空気が澄んでいて、夕方になると落ちる夕陽は大変美しく、日によっては変幻自在を演じるのであった。

ふる里仁尾の町は街域が狭いながらも、遠浅のため古来より製塩業が営まれ盛んであった。

また葛島の北側は水深が一部深いこと、そして西側には大葛小島の二つの島があり、また、北側には岬が出っ張っていたため、昔の船人にとつて風よけ、汐待の港になっていたのである。このため対岸の福山町の浦や尾道と交流があったことで、小さい街でありながら、讃岐の大商業集散地の一つとして賑わっていた。備前児島・下津井も同様に港町として栄えていた。

けれども明治以降には鉄道路線が敷設されなかったため土地の余力がなかった、発展に取り残されていた。しかしこれ迄の域外との交流による情報網のおかげで、産業的には製塩業、鉄工業、模造真珠生産などの家内工業、港の立地を利点とする粘土瓦産業、ミカン栽培や花卉栽培などで頑張ってきたのである。しかし先の大戦後による外部環境の変化により経済産業構造が大きく変質してきた。特に当地の主力産業である塩田業経営は、昭和四十七年にイオン交換樹脂膜製法に変わったことで戦後初めての大きな転換期を迎えることになる。



太陽熱発電所

当地の仁尾塩田も廃業になってしまった。この跡地の活用について、関係者たちは方策を考えてきた。問題を逆手にとつて新しい産業である太陽光を利用する電力発電に関心を寄せたのである。その結果、太陽光のプラント発電が通産省を主導にして当地で試みされ、また、この事業推進の広報のため当地において「仁尾太陽博覧会」が開催された。この時には、観音寺から仁尾までの県道筋は物見來客者で溢れかえり、まっ

たく大変な渋滞を来たすことになった。また來客数は、一年間の開催期間で凡そ百二十万人にものぼり、当町歴史が始まって以来、地元民が目にする初めての光景であった。

その後、当地での試験、プラントから始まり、これを大規模にした発電所建設が伊予西条に計画されることになった。しかし、もう一つ原子力を利用する発電方式が企画されていたのであるが、背後には中曽根内閣と正力松太郎グループによる強引な政策転換が起こったのである。当時アメリカの原子力発電の基本となるマンハッタン計画に日本国も相乗ることになったのである。

そして日本の通産省が進めていた初期の太陽光発電計画は、前記述のグループによる当時の政権権力者の介入により挫折することになった。

この仁尾塩田の跡地は、仁尾博覧会終了後は更地のまま長らく放置されてきた。この塩田跡地は仁尾塩田町と仁尾町の所有に二分されていたが、町が所有していた

土地は個人住宅分譲地や民間の工場などに転用されてゆくことになる。この間、関係機関や個人においても地域再生のための施策が立案されてはきた。その一部事業としてエビの養殖が行われている。その後、現在塩田埋め立て地には二、三の工場立地を見ている。

やがて年数を経て今日に至っているが、幸いなるかな、一度あることは二度もあるものだらうか、太陽博で想定外の多人数が来町したような経験は二度とないものと私的に思っていたのであるが、再び天の恵みが与えられることになった。今回も多くの来町者が「父母ヶ浜」の夕陽景観に魅せられて来るといふ、二回目の大きな来入客状況に町民は遭遇することになるのである。

情報化時代のSNS方式により、ある人物が投稿した映像が大きな契機となったのである。その映像はボリビアにあるウユニ塩湖の風景によく似ているとの共感を得て、SNS上で爆発炎上したものである。運用効果性とその魔力は、筆者の予想に反して今回のSNS手段による投稿がシンボリックな話題を国内外に大きく攪拌し



父母ヶ浜海岸

たのである。彼らは父母ヶ浜の水たまりの水面に映し出される相対性の映像や背景に魅了され、一度でも良いからこの場に自分という存在を映し出すと考へても不思議ではない。時刻は夕方、晴れた夕映え刻とき、然も薄暗くなりつつある短い時間の中である。その状況下で神秘性の自然の営みの中に自分が主人公として参加できるのである。その喜びがまた自分を癒してくれるのであろう。主体者として自分が演出・主演登場できる魅惑的な舞台映像

写真が、ここでは図らずも出来る上がるチャンスがある。この期待感が大きくもあり、この父母ヶ浜の地は爆発的人気を獲得することになってしまった。

さて想定を超えたインターネット効果を得たのであるが、地元関係者にはこの効果を上手く取り込み、この領域全体に観光産業の果実をあまねく分配し継続ができるのか注視したいところである。この観光関連の人氣はむしろ受動的に得たものであるため、事前に想定・予測していた大局的策提案ではなかったものである。それ故、この好機を維持継続するために地域住民全体が全力で取り組む姿勢が問われることになる。

いみじくも自然現象による観光資源の発生は、自然景観は良いとしても、これを補完するため総合的、大局的の見地から付加価値をつけるプラス資源となる要素(ファクター)を発掘せねばならない。そして加



インスタ映えのする写真を撮影する観光客

作業をすることである。例えば景観だけでなく、社会活動からのリフレッシュの対応、地理歴史の発掘と学習、癒しを提供する建造物の提供、生活環境の立案素敵な古民家の再生など、健康上では未病のための手軽な健康教育・運用設備・施設の充実を図るなどである。この砂浜には、かつて本ハマグリやマテ貝が、そして北側の浜にはアサリがよく獲れていたものである。これらは乱獲していたがため、ほとんど消滅したのではなからうか。回復を試み

史の観点から見れば歴史の変転と共に経済の浮き沈みを幾度も体験してきた土地柄でもある。そのため中高生や大学生を対象とした経済史学習・研修のメッカードとして期待できるのではなからうか。そのための研修施設の建設と講師の養成も考えられるのではなからうか。この小さな町がなぜ栄えていたのかの背景と分析。また、かの司馬遼太郎は旧制中学二年の時仁尾で夏休みの一か月を過ごしている。彼を魅了した風景と人情がここにはあり、仁

るためには大変な努力と出費も必要であろう。また遠浅であるため、定期的な地引網の参加実施(子供を対象としたもの)も面白いのではなからうか。いずれにしても日帰りでなく宿泊の形で進めるべきと考えるのである。魅力ある宿泊施設と美味しい食膳も必要であろう(古い街なみと父母ヶ浜との連結・連携。

尾に関係した事柄の文章が三度も彼の小説や評論集のなかに掲載されている。この新しく出現した自然現象の観光資源からは、新しい戦略の樹立が期待できる可能性があるように想うのである。各地方都市が疲弊する中で、創意工夫した地域が生き残るのであり、住民の同意や誇りを持つるものを創ってほしいものである。この千載一遇のチャンス期を逃さず、地域住民の心意気と協働性が殊に要求される。その結果が地域を光り輝けるものにするのである。

(参考書籍)

香川不器男

・新修 仁尾町誌

・仁尾村史

・いま都市が選ばれる

中村良平

・山田方谷ゼミナール第2号

同 ゼミナール第3号

吉備人出版発行

・「京極」会報 令和特別号

(10号)

藩政時代の仁保村

大西紘一

・「明治文庫」会報第33号

仁尾の昔物語 真鍋國六

・讃岐のまなべの歩み

讃岐まなべ会編

宇宙化学と医学のハーモニー

(地方都市が輝く日)

全国まなべ会および方谷研究会員 真鍋國六

いささか前のことになるが、平成十八年(2006)六月のころである。山口県の宇部市にある宇部医療センターの「岡部和倫」医師は、担当患者のレントゲン映像写真の中に、ある陰の存在に疑問を持ったのである。何か変わった物質のようであるが、医者の方では把握できない映像に遭遇した。

ある日の新聞に、岩石や隕石など微小物質の分析技術が世界トップレベルなどと紹介した新聞が目にとまった。「すごい人が岡山に大にいます。その技術で肺組織を調べたらおもしろい」と述べている。こ

のすごい先生とは、当時岡山大地球物質科学研究センターの中村栄三教授であった。この先生は「地球惑星物質総合解析システム」を独自に設計しており、この手法により微量のサンプルからでも、元素や物質の年代を測定する同位体の分析を可能にした先生である。この中村先生と医者の岡部先生との連携が出来ることになる。

そして三年後の平成二十一年(2009)には、中村栄三教授らのグループがこの年の七月二十七日までに、悪性胸膜中皮腫患者の肺組織に高濃度の放射性物質「ラジウム」が蓄積し

容解明につながる成果として注目されていた。

中村栄三教授は「中皮腫発症の直接的な原因はアスベスト繊維そのものではなく、アスベストに誘発されてきた重金

属を集める「たんばく質」である可能性が強いと指摘されている。このアスベストを体内に吸入して長い時間の経過とともに肺がんを発症した人たちが国内でもその後多く発見されている。この人たちの治療と救済は現在も行われている。

ここに紹介した中村教授は、また宇宙の小惑星の研究においても大変活躍されており、日本の宇宙航空研究開発機構(JAXA)の小惑星に関する探査研究でも多大の貢献をされておられる。

第一次の「はやぶさ」が平成二十二年(2010)六月に小惑星「イトカワ」から微粒子を持ち帰っている。翌年の二〇一一年一月には量の少なかった微

粒子を全国十三の大学・研究機関に配布し、詳細分析を開始すると発表している。この時には岡大は鉱物組成の分析を担当することになった。また今回の第二次のはやぶさ二号が「リュウグウ」から持ち帰った試料五、

四グラムは国内の各研究機関やNASAそして国際公募で選んだ研究者へ配布されることになっている。そしてその他予備としての保管や博物館での展示用として残されることになった。

配布明細内訳

・国際公募の研究者	0.8g(15%)
・NASA	0.5g(10%)
・国内六研究班	0.3g(6%)
・岡大・JAMSTEC	0.2g(4%)
・その他予備	3.6g(65%)

右の一覧表から判かるように、国際機関への配布も考慮されている。また、国内では岡大とJAMSTECが独立機関として試料が多く配布されているようである。この機関の組織的充実度が大きいものと私的に考えるのであるがどうだろうか。

この第二次でのサンプル試料が配布され、その後研究が進められている。この六月には二班に分かれて研究してきたグループから二本の中間報告がされた。この二本の研究論文は米科学誌サイエンスなどに掲

載され、公にされたのである。

この論文の公表では、今まで謎とされてきた二つの問題に対する解明へのアプローチである。一つには地球の生命の起源に関わるものであった。サンプルからは、生命の源となるたんばく質の材料となるアミノ酸が二十三種類検出されたことである。アミノ酸は宇宙から飛来したか、はたまた、地球で出来たものかという学説が分かれていたが、この研究成果では宇宙由来説を後押しするものであった。

もう一つは太陽系の成り立ちである。サンプルの成分の一部は四十六億年前に太陽系が誕生してから約三百万年後にできた可能性があるといる。その後、ほとんど加熱されず、太陽系の初期の成分を保っていると考えられている。

「リュウグウ」のような小惑星には、太陽系が誕生した四十六億年前の痕跡が残るといわれる。地球誕生後に溶けてしまっている。地球の地上では確認できない物質が、小惑星では残る可能性がある。「太陽系の化石」と呼ばれるものである。今回の「リュウグウ」から持ち帰った微粒子の分析から、想定していたア



中村栄三教授

ミノ酸の存在を突き詰めたのである。地球外の天体にもアミノ酸が存在する可能性が高くなったと言える。

探査機はやぶさ2が持ち帰った小惑星リュウグウの試料について、岡山大学などのチームは、生命の源となるアミノ酸二十三種類の検出を正式発表した。リュウグウの起源は氷が主成分の水天体だとする新説も提唱した。

このJAXAの二回にわたる小惑星からの砂の微粒子分析において重要な分析を果たしている岡山大学の研究機関についてその沿革を辿ってみよう。

岡山大、現在の「惑星物質研究所」について

この研究所が今日に至る経緯について例示したい。

- ・昭和五年、岡山医科大学の温泉研究所を鳥取県の三朝に設置する構想のもと進められ、地元からの寄付や土地の提供を得る
- ・昭和十二年十一月建設着工する
- ・昭和十四年七月岡山医科大学三朝温泉療養所を開設する
- ・昭和十八年岡山医科大学放

射能泉研究所に改組

- ・昭和二十四年一月温泉化学部門増設する
- ・昭和二十六年三月岡山大学温泉研究所に改称する
- ・昭和二十九年三月温泉地質学部門増設
- ・昭和四十四年超高压発生装置一号機を設計設置する
- ・昭和六十年四月温泉研究所の廃止、地球内部研究センター設置する全国共同利用の施設として設置

この研究センターの組織については

- ①研究部門
 - ②同位体岩石学部門
 - ③地球深部物質学部門
 - ④地球物理化学部門
- の四つである

平成七年四月固定地球研究センターへ改組
その後地球物質科学センターとなる

その後、平成二十八年(2016)四月に組織の拡張により現在の惑星物質研究所となる。そして令和二年(2020)にはJAXAと連携協定を締結して今日の研究結果を提供発表することになる。

この惑星物質研究所は共同利用・共同研究拠点としての

役割も担いつつ、国際的な研究交流を主導し、実践することにより新たな研究の方向性を切り拓くことを意図している。

この研究所だけで地球・宇宙化学で重要なほぼ全てのデータを一元的に集めることができる」とされている。

*この研究所のこれまでに注目された研究実績の二、三を例示してみたい。

①初代はやぶさが持ち帰った小惑星・イトカワの微粒子の初期分析を実施国内共同研究した研究業績は、米科学誌サイエンスが選ぶ「2011年の科学十大成果」の一つに選ばれている。

②肺がん発生メカニズムの解明をしている。アスベストを吸引して、多年数が経過した後、肺がんを発生した患者の発生原因の究明をし、公表にいたる。

③アフリカのケメルンの高地にある二オス湖から流出した二酸化炭素を起因として、多数の村民や飼育牛などが死亡した事例で、死滅の原因追及をしている。

この研究所は、現在宇宙での惑星物質の研究まで多岐にわ

たっているが、そもそもこの研究所が出来た当初の目的は、自然と人間との関係で発生する病気との関りを研究目標にしていた。すなわち医学研究を当初の目的として出発した機関であったが、この地域の岩石の持つ放射性岩石の医療的効能とその運用事態に限定されないものになってきた。この研究所の研究実績向上とともに、時

代がより大きな対象範囲の研究に拡大期待するものになってきた。勢い設置する機械器具も最先端のものになってきている。

中国山地は緩やかな傾斜地であり、古来より鉱山の多いところであった。それ故、地下物質の探索や分析のノウハウに長けていた土地柄でもあったことである。この歴史的背景に

山陽新聞 2009年(平成21年) 7月28日 火曜日

中皮腫肺にラジウム蓄積

医学に宇宙化学導入

異分野技術活用し成果

岡山大グループが27日までに、中皮腫患者の肺組織に高濃度のラジウムが蓄積していることを発見した。従来のアスベスト繊維説とは大きく異なる研究成果は、医学と宇宙化学という異質の二つの領域が組み合わされたことで実現した。そこには、研究者共通の好奇心という、熱い思いがあった。(一画関連)

研究は2006年3月に純物を取り除く除ベクリー、山口手塚医療センターと複数の分析チームを独自に設計。タリウムの同位体と放射線計測装置を連結した「地球微量量のサンプルから肺組織の分析を、岡山大学地球物質科学研究所で実施した。分析の結果、中皮腫患者の肺組織にラジウムが蓄積していることが判明した。これは、従来のアスベスト繊維説とは大きく異なる研究成果である。医学と宇宙化学という異質の二つの領域が組み合わされたことで実現した。そこには、研究者共通の好奇心という、熱い思いがあった。(一画関連)



研究論文の確認をする中村教授(左)と岡部医師

今回の研究でも同システムが活躍。生体組織と一口に言っても、進んで検体に戸惑いつつも、中村教授らはアスベスト小体などに含まれる付随的な元素を分析。宇宙化学の世界では、当たり前のやり方だが、「医学研究でここまで詳しく調べようとする発想も手法もない」と岡部医師。中村教授は「結果は

よりこの研究所は地域と密着した研究所として歴史を刻んできた。それ故、地域とのかかわりの深い研究所と言えよう。それは、前述の研究所の変遷を見れば納得ができるのである。視点を変えれば、この研究所は地域を活性化する地元の価値ある有形資産であり、また国際的研究機関である。

従って地域と、この惑星物質研究所が連携して付加価値のある諸々の資産を今後とも形成できる可能性があるとも考えられる。当地域には世界的に情報発信できる有力な研究機関資産が在ることは、地元にとって誇りであり自慢できるものである。それ故、この機関との共生・協働により、今後より一層輝ける地方としての夢と希望があると考えられる。この地域の人は、誇りと自信を持ってこの稀有な機関資産の活用を図られてはどうであろうか。地元各人の前向きな意欲と、地域創生への参画意識が芽生えれば、真に明るい未来展望が開かれるのではなからうか。この研究所以外にも地域の温泉地、倉吉地域の伝統的建造物、二十世紀ナシなどの果物、地場野菜、また先を見据えて設立された県立環境大学の存在など、人、物、金、そして無形資産などに視点を据えれば、付加価値付与やコラボする対象はいくらでも存在するのである。この地域が今後とも輝ける地方になるには、地元各人の強い意志と意欲の発露にかかっているのである。それが新しい資産展開を産むことになる。

虹の架け橋

埼玉まなべ会会長 眞鍋 透

関東地区では毎年地区での統合まなべ会を行ってまいりましたが、コロナ問題に遭遇して開催出来ておりませんでした。この関東交流会の開催を気に掛けておりましたが、熱海の眞鍋梅美(静岡まなべ会長)さんから「富士山と末代上人：熱海の会」の令和四年度の総会に参加依頼の招待状を頂き参加させていただきました。

この会の会長をされているのが、静岡まなべ会の会長である梅美さんであります。彼女からのお誘いを受けて、関東地区から当初三名が会場に駆け付ける予定でしたが、二名の方に急用が出来てしまい、不肖わたしが大役を一身に担うこととなりました。



伊豆山神社

当日は総会と講演の二部制で執り行われました。総会の審議事項が終了してからは、講演会では「伊豆山と日金山の仏像」についての講話もあり、大変興味を惹かれました。またその後の予定で交歓会が行われましたが、このおりに眞鍋梅美さんの「日本舞踊が披露されました。題目の『八重姫の踊り』に心を奪われました。

この会の総会に参加された方々と歓談していて、ここに列席している方々は地元熱海の歴史や文化に全く造詣の深い人たちと拝察いたしました。また集団演舞においても、纏まりも良く、各人の一動作、一動作も艶やかで、かつメリハリのある美しく連携されたもので感嘆した次第でした。そして踊り手の皆さん方の表情がとても生き生きとしていてとても魅力的でした。この機会を与えて下さった会員の皆様方に感謝申し上げます。

この総会は成功裏に終わりましたが、散会後に頂いた梅美会長からのお言葉が、とても金言に思えたのでした。曰く「何でも、自分で見たこと、聞いたことが一番よ。自信を持って話せるし、嘘がない」。梅美会長の存在感の大きさを再認識した熱海での出来事でしたので、ここに謹んでまなべ会の皆様にご紹介させ



末代上人と宝篋印塔前で手を合わせる梅美会長(左端)

ていたきます。また、皆様方に相まみえることを祈りまして筆を置くこととさせていただきます。

(追伸)

*ここ熱海地区には従前より政財界の知識人、文化人が集積していて、文化の香りを高めたという伝統のある土地柄です。

*富士山が世界文化遺産に指定されるに際して、この会が果たした役割は非常に大きいものがありました。

*集中豪雨の被害がありました。この地域には、発掘できる有形、無形資産が豊富です。みんなの叡智で発掘し、それを加工すれば素晴らしい資産が創出できると思います。地元の意欲と自信、そして連帯心を期待したい。

香川不器男 追記

令和3年度事業報告

1. 会報第62号(1,100部)、63号(1,000部)をそれぞれ発行致しました。
2. 全国まなべ会役員会申し合わせによる各地区まなべ会宛の補助金を令和4年1月15日付にて振込みました。
振込み総額は71,200円。(参考、前年度は75,200円)
3. まなべ島五稜郭公園の保守管理契約に基づき、阿部建設に清掃を行ってもらった。年間保守契約料金(七万円)
4. 令和3年10月25日付にて、各地区まなべ会々長宛に新全国役員の推薦依頼を行った。
5. 全国本部執行役員会議を令和3年10月16日、令和4年3月19日に開催した。(高松市の光廣会長事務所)
第40回大会は「新型コロナウイルス」による感染影響により、来年度に再順延する。
令和4年3月20日、全国地区会長宛にて全国大会延期連絡を郵送した。
6. 令和4年5月1日現在、全国顧問、理事、評議員等全国役員は151名と当会運営の基礎を維持致しております。
7. 長寿賞記念品贈呈(令和3年度満80歳になられる方3名)

令和4年度事業計画

1. 会報第64号を10月上旬に、65号を3月下旬に夫々1,000部を発行する。
なお、役員会費、および会報助成金のご依頼振込用紙は第64号に、同封して発送する。
2. 全国役員会を令和4年10月、令和5年3月に開催する。
・第40回「全国まなべ会総会」開催のやり方
・まなべ島五稜郭公園の保守管理契約に基づき、阿部建設に清掃を行ってもらっている
年間保守契約料金(七万円)の見直し
3. 各地区会長宛にて全国役員推薦の依頼を行い全国役員の増強を図る。
これにより本会発展の基礎を確立して次世代に引き継ぐこととする。
4. 超高齢化社会を踏まえて、組織拡充(役員改選・・・)の方策を皆で考えることとする。
5. 長寿賞記念品贈呈(令和4年度満80歳になられる方8名)令和4年5月郵送した。

令和3年度全国、及び各地区まなべ会活動状況

年 月	活 動 事 項	場 所	参 加 全 国 役 員
令和3.4	土佐佐川まなべ会先祖祭	佐川の先祖神祠	佐川地区同族
令和3.4	全国まなべ会会報誌第62号発行	広報部	
令和3.4	北海道まなべ会会報誌発行	北海道まなべ会	
令和3.4	全国まなべ会役員会	光廣事務所	光廣・國六・克也・隆・芳男・澄夫
令和3.6	紀州白浜まなべ会 先祖祭	熊野三所 神社	
令和3.10	全国まなべ会会報誌第63号発行	広報部	
令和4.1	阿波まなべ会会報誌発行	阿波まなべ会	
令和4.2	讃岐まなべ会会報誌発行	讃岐まなべ会	
令和4.2	阿波まなべ会総会実施	阿波まなべ会	
令和4.2	讃岐まなべ会総会	讃岐まなべ会	
令和4.3	全国まなべ会役員会	光廣事務所	光廣・國六・克也・隆・芳男・澄夫

令和3年度一般会計決算

令和4年度一般会計予算

単位：円

自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日

収 入			支 出		
摘 要	予 算	実 績	摘 要	予 算	実 績
年 会 費	490,000	502,000	各 地 区 補 助 金	69,000	71,200
(全国役員)	※5,000×50	※5,000×53	全 国 大 会 補 助 金	0	0
	250,000	265,000	総 会 準 備 金	0	0
	※3,000×80	※3,000×79	財 政 部 費	(85,400)	(93,348)
	240,000	237,000	・ 振 替 口 座 料	50,000	56,358
会報助成金	100,000	126,000	・ 事 務 ・ 通 信 費	27,000	29,070
(一般会員)	※1,000×100	※1,000×126	・ 会 費 振 込 票 印 刷 費	8,400	7,920
計	590,000	628,000	広 報 部 費	(363,000)	(366,858)
廣 告 費	20,000	0	・ 会 報 (61.62号)	300,000	288,200
寄 付 金	10,000	10,000	・ 郵 送 料	30,000	47,868
雑 収 入	700	1,400	・ 編 集 費	10,000	8,635
貯 金 利 子	7	6	・ インターネット維持費	13,000	12,540
			・ 雑 費	10,000	9,615
			組 織 部 費	0	0
			調 査 研 究 部 費		
			婦 人 部 費	5,000	0
			事 務 局 費	(72,000)	(38,703)
			・ 事 務 費	15,000	8,010
			・ 慶 弔 費	10,000	0
			・ まなべ会榮譽賞		
			・ まなべ会功労賞		
			・ 感謝状作成費		
			・ 長寿記念品代	20,000	11,691
			・ 封筒作成費	7,000	15,233
			・ 雑 費	20,000	3,769
			税 金 (相 続 税)		
			全 国 本 部 役 員 会 費	20,000	31,820
			記念碑特別会計補助	0	
小 計	620,707	639,406	小 計	614,400	601,929
前期繰越金	2,212,482	2,212,482	次期繰越金	2,218,789	2,249,959
合 計	2,833,189	2,851,888	合 計	2,833,189	2,851,888

次期繰越金明細は普通貯金	事務局長通帳	0 円	*振替口座料56,358円の内訳	
	國六財政部長通帳	949,959 円	振替手数料	44,698円
	國六財政部長定額貯金	<u>1,300,000 円</u>	局からの通知料	<u>11,660 円</u>
	合 計	2,249,959 円	合 計	56,358 円

単位：円

自 令和4年4月1日 至 令和5年3月31日

収 入			支 出		
摘 要	予 算		摘 要	金 額	小 計
年 会 費	※5,000×50 = 250,000		各 地 区 補 助 金	70,000	
	※3,000×80 = 240,000		全 国 大 会 補 助 金	0	
会報助成金	小計(490,000)		総 会 準 備 金	0	
	※1,000×110 =110,000		(議案書・役員名簿等)		
	小計(110,000)			(86,000)	()
	合計(600,000)		・ 振 替 口 座 料	53,000	
廣 告 費	0		・ 事 務 ・ 通 信 費	25,000	
寄 付 金	30,000		・ 会費振込票印刷費	8,000	
雑 収 入	1,000		広 報 部 費	(378,000)	()
貯 金 利 子	4		・ 会 報 (63,64号)	300,000	
			・ 郵 送 料	45,000	
			・ 編 集 費	10,000	
			・ インターネット維持費	13,000	
			・ 雑 費	10,000	
			組 織 部 費		
			調 査 研 究 部 費		
			女 性 部 費		
			事 務 局 費	(75,000)	()
			・ 事 務 費	10,000	
			・ 慶 弔 費	10,000	
			・ まなべ会功労賞		
			・ まなべ会榮譽賞		
			・ 感謝状作成費		
			・ 長寿記念品代	40,000	
			・ 封筒作成費	5,000	
			・ 雑 費	10,000	
			全 国 本 部 役 員 会 費	20,000	
			記念碑特別会計補助	0	
小 計	631,004		小 計	629,000	
前期繰越金	2,249,959		次 期 繰 越	2,251,963	
合 計	2,880,963		合 計	2,880,963	

注1：予算執行に際して各項目間の流用を認めるものとする。

令和3年度継志館会計決算

自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日

単位：円

収 入		支 出	
摘 要	実 績	摘 要	実 績
貯 金 利 子	3		0
小 計	3	小 計	0
前期繰越金	1,399,895	次期繰越金	1,399,898
合 計	1,399,898	合 計	1,399,898

次期繰越金(残高)明細

定額貯金 1,000,000円 合計 1,399,898円
通常貯金 399,898円

令和3年度記念碑特別会計決算

自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日

単位：円

収 入		支 出	
摘 要	実 績	摘 要	実 績
一般会計よりの助成	0	五稜郭公園保守管理費注1	70,000
千人碑申込金(仮受金)	0	千人碑建立代金	0
貯金利子(定額)	21,951	代金払込手数料	0
貯金利子(普通)	2		
小 計	21,953	小 計	70,000
前期繰越金	2,124,851	次期繰越金	2,076,804
合 計	2,146,804	合 計	2,146,804

注1: 阿部建設との同公園保守管理契約に基づく委託料。

次期繰越金(残高)明細 定額貯金 1,840,000円 合計 2,076,804円
通常貯金 236,804円

全国まなべ会令和四年度長寿賞

本年満八十歳になられる8名の方が受賞されました。事務局より記念品を送付いたしました。

眞鍋 重雄(北海道)
眞鍋 清(埼玉)
眞鍋 梅美(静岡)
眞鍋 弘(静岡)
眞鍋 充宏(紀州)
眞鍋 成之(兵庫)
眞鍋 匡徳(讃岐)
眞鍋 仁輔(福岡)

左記の礼状が届きました。

初夏の暑さから本格的な猛暑へと続く季節と相成りました。
この度は、長寿賞なる素晴らしい品をご惠贈たまわりまことに有難うございます。
コロナ禍の中色んな行事が延期又中止となっております。
全国まなべ会の発展を祈っております。
まずは御礼とさせて頂きます。

不一



編集後記

今年の夏は例年より暑くなるとの長期予報であった。予想に違わず気温は高くなっていたが、夏の列島全域は極端に二分された気象状況の中にあった。東北・関東及び北海道では長期にわたる集中豪雨に見舞われたが、一方西日本側においては晴天で雨の降らない日が続いたのである。前線と低気圧の相乗効果と偏西風の蛇行により、日本全域では異常気象を発生させる特異な年となった。このところの猛暑状態とコロナ感染下では、会報誌の原稿作成は進まず、しかもネタ不足である。しかし国内外の政治外交面では、反対に、国民に影響の及ぶネタは豊富である。勢い関心の目がその方にも及ぶことになる。

ここ三年にわたり全国大会の行事は実施されていないので、編者にとつて会報誌作成の環境は良くないものである。これを脱却できるのがプロの仕様と思うのであるが、残念ながらその芸当は筆者には、からきし無いのである。そこを値引きしてもらいたいという筆者の本音が透けて見えるのを承知でお許しいただきたく、やっと編集完了に漕ぎ着けたものである。